

令和4年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育ステージ	早期：減数分裂期～穂ばらみ期 早植：分けつ盛期～幼穂形成期 普通期：活着期～分けつ盛期
生育概況	早期：「コシヒカリ」の生育は順調で、出穂期は平年並～やや早まると見込まれる。 早植：生育は概ね順調。藻類の発生が多い。 普通期：移植直後の高温のため薬害やガス害、藻類の発生が多い。

1 気象経過 (前橋地方気象台の気象データ、7月は第3半旬までのデータ、参考資料参照)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+1.6℃	+0.1℃	+1.1℃	+2.1℃	—	—	—
降水量(平年比)	152%	169%	83%	113%	—	—	—
日照時間(平年比)	88%	112%	118%	103%			

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培 (6月15日以前の田植)

早期栽培は、茎数は確保されており生育は順調。藻類の発生が多い。高温のため「コシヒカリ」の出穂期は平年並～やや早まる見込み。

早植栽培は、育苗期の病害は、一部で苗立枯病やもみ枯れ細菌病、苗いもち等が発生した。本田の生育は、6月前半の低温の影響で生育の遅れが見られたが、梅雨明け後の高温により概ね回復し、茎数は平年並に確保されている。全域で藻類が多く、中山間地ではイネドロオイムシやイネミズゾウムシの発生がやや多い。

イ 普通期栽培 (6月16日以降の田植)

育苗中は、低温の影響により苗の伸長が抑えられるとともに、一部で苗いもちが発生した。麦の収穫が遅れたため、移植作業は平年並～3日程度遅れた。移植直後は著しい高温が連続したため、ガス害、除草剤の薬害が多く、被害を受けたほ場では初期生育が遅れ、茎数がやや少ない。藻類の発生が平年より多い。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

一部で苗いもちが発生した
藻類の発生が多い。

中山間地域でイネドロオイムシ、イネミズゾウムシの発生がやや多い。

イ 普通期栽培

一部で苗いもちが発生した。

藻類の発生が多い。

ガス害や除草剤の薬害、赤枯症が多い。

(3) 作況ほ等の調査結果

ア 作況ほの調査結果（表1参照）

県平均の移植後20日の草丈は29cm(過去平均比95%)、茎数は170本/m²(同94%)、移植後40日の草丈は56cm(同102%)、茎数は493本/m²(同103%)であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

稲麦研究センター（6月24日移植）

「ゆめまつり」の移植後20日の草丈は37.8cm(過去9か年平均比102%)、茎数は440本/m²(同124%)であった。

東部地域研究センター（6月1日移植）

「ゆめまつり」の移植後20日の草丈は30cm(過去10か年平均比96%)、茎数は342本/m²(同85%)、移植後40日の草丈は52cm(同82%)、茎数は739本/m²(同104%)であった。

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後20日調査			移植後40日調査		
		か所数	草丈 cm	茎数 本/m ²	か所数	草丈 cm	茎数 本/m ²
県	6/3(0)	4/15	29(95)	170(94)	9/15	56(102)	493(103)
中部	6/15(0)	4/4	31(93)	178(86)	1/4	57(92)	522(126)
西部	6/5(-1)	3/4	29(94)	118(73)	2/4	61(96)	421(93)
北部	5/20(0)	4/4	27(93)	163(99)	4/4	50(108)	492(99)
東部	6/6(+5)	3/3	31(100)	219(116)	2/3	60(106)	555(108)
早期・早植	5/26(-1)	10/10	29(97)	220(113)	9/10	56(102)	493(103)
普通期	6/24(+1)	4/5	35(101)	130(77)	0/5	—	—

注1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の（）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 7月15日現在で調査時期となったほのみの値で、か所数欄は「調査か所/設置か所数」を示す。

4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。

5) 高崎市は品種が変更となったため、西部平均・県平均から除外した。

(4) 作柄のまとめ（表2）

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況（）内は普及指導課・地区農業指導センター

地域別	作柄	作柄概況
中部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：分けつ後期～幼穂形成始期。育苗中は一部で苗いもちが発生。田植えは順調に進み生育は順調。本田では一部で赤枯症、イネミズゾウムシが発生。 ・普通期栽培：活着期～分けつ盛期。麦の収穫が遅れたため田植え作業が3日程度遅れた地域があった。梅雨明け後の高温のため藻類や植え痛みの発生、除草剤の薬害が多く、ガス害も影響して初期生育の遅れが見られる。一部で育苗中にいもち病が発生した。
西部 (西部) (藤岡)	並	・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。育苗中の低温・寡照により小苗だった。本田では6月前半の低温・寡照のため生育が遅れたが、梅雨明け後の高温のため回復している。赤枯症や藻類・ガス害が多い。

(富岡)		・普通期栽培：活着期～分けつ前期。育苗中の低温・寡照のため苗の生育が遅れ、一部で苗いもちが発生した。田植えは小麦の収穫遅れや一部地域で水不足のため3日程度遅れた。初期生育は良好だが、高温時に植えたほ場では植え痛み、葉害、藻類、ガス害の発生が多い（西部、藤岡）。
北 部 (吾妻) (利根 沼田)	並	・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。育苗期は一部でもみ枯細菌病（吾妻）、焼け苗、苗立枯病（利根）が発生した。6月の低温・寡照の影響で高標高地域では生育が劣る（吾妻）が、全体的には回復傾向。本田では、イネミズゾウムシ（吾妻）イネドロオイムシ、藻類がやや多く、一部でガス害や葉いもちが散見される。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・早期栽培：減数分裂期～穂ばらみ期。茎数は平年並に確保されている。6月下旬以降の高温のため出穂期は平年並～やや早まる見込み。藻類が多い。 ・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。概ね生育は順調で茎数は平年並（東部、館林）～やや多い（桐生）。やや軟弱な生育で葉色が濃く、藻類、ガス害が多い。イネドロオイムシ、イネミズゾウムシの発生がやや多く、葉いもちが散見される（桐生）。 ・普通期栽培：分けつ前期～分けつ盛期。麦の収穫遅れのため一部で田植えが遅れたが、概ね平年並みに終了。除草剤の葉害や赤枯症状、ガス害、藻類が多い。

3 技術対策

(1) 全般

7月15日現在、戻り梅雨により曇雨天が続いているため、葉いもちの発生が懸念される。一方、気象庁の長期予報では、向こう1か月は高温となる確率が50%と予想されているため、高温による生育の前進が見込まれ、穂ばらみ期～登熟中期が高温となった際は、不稔や白未熟粒・胴割粒等の発生が懸念される。

(2) 早期・早植栽培

ア 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

イ 病害虫は、天候や今後の発生状況および発生予察情報を踏まえ、効果的防除に心がける。いもち病は早期発見に努め、急性病斑が認められる場合は早急に防除を行う。上位葉への病斑が多い場合は、穂いもち予防のため穂ばらみ期と穂揃期に防除を行う。

ウ 中干し後および出穂後はうわ根を傷めない程度の間断かん水により根の健全化を図る。出穂後が高温となった場合は、飽水管理^{*}や夜間入水を実施し、ほ場の過乾燥には注意する（※飽水管理とは、足跡に水が残る位に減水したら入水する管理法）。

エ 出穂後の高温・強風時や台風襲来時は、風がやむまで湛水管理を行い、品質低下を防止する。

(3) 普通期栽培

ア 水管理は浅水で管理を行い、分けつの確保を図る。

イ 有機物の分解によるガス害が懸念されるほ場では、間断かん水や軽度の中干しによりガスの放出を促す。有効茎が確保できたほ場では中干しを開始し、生育量の制御と根の健全化を図る。

ウ 中干し後は根腐れ防止のため間断かん水を実施する。

エ 中干しに合わせ、けい酸カリ（20～40kg/10a）または塩化加里（10kg/10a）の追肥を行い、根の機能回復を図る。

オ 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と

高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

カ 天候や病害虫の発生状況および発生予察情報を踏まえ、効果的防除を心がける。いもち病は、発生源となる置き苗を早期に処分するとともに、早期発見・早期防除に努める。稲こうじ病の発病履歴のあるほ場では、薬剤により防除適期が異なるが出穂20～10日前を目安に防除を行う。

《参考資料》

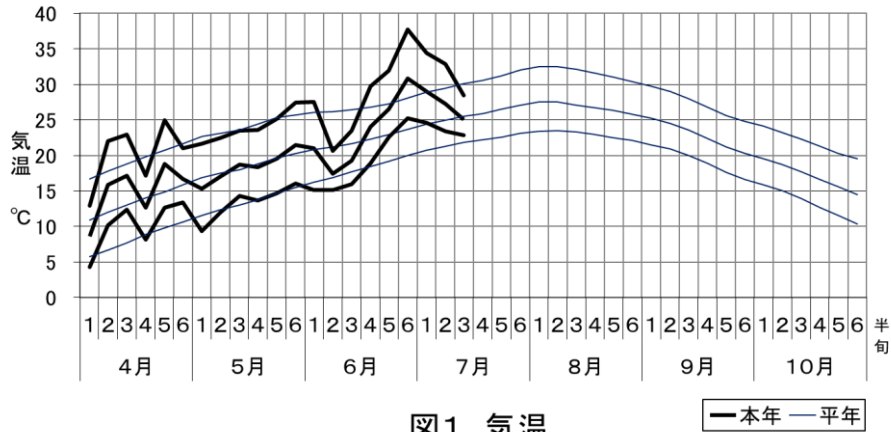


図1 気温

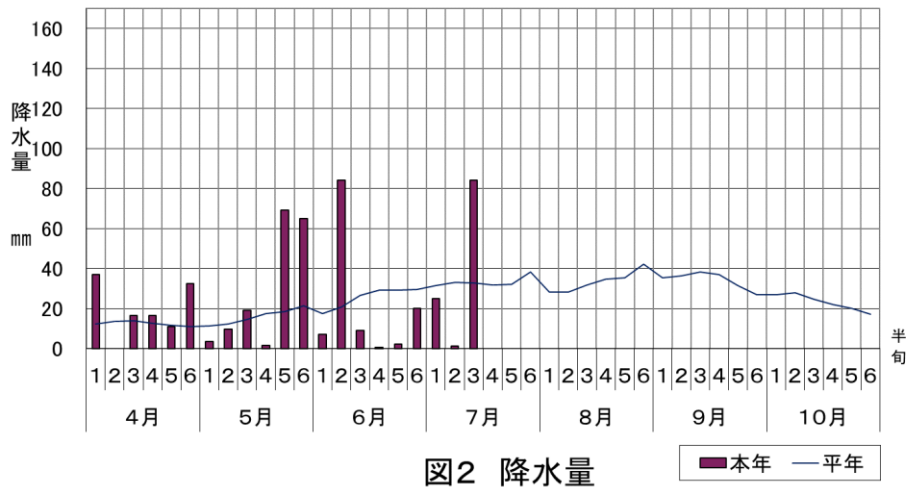


図2 降水量

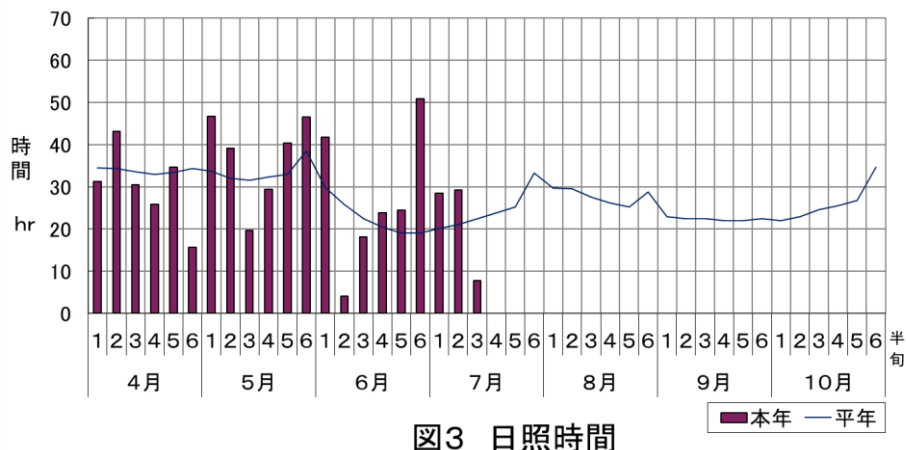


図3 日照時間